



< 事業所自己評価 >

資料4

【事業所概要】

法人名	医療法人 エイチ・エス・アール	事業所名	看護小規模多機能型居宅介護 末吉
所在地	(〒903 - 0801) 沖縄県那覇市首里末吉町 2-95-4		

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2023 年 11 月 8 日	従業者等自己評価 実施人数	(16) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2023 年 11 月 22 日	出席人数 (合計)	(8) 人 ※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	■自事業所職員 (4 人) ■市町村職員 (1 人) ■地域包括支援センター職員 (1 人) ■地域住民の代表者 (1 人) □利用者 (0 人) □利用者の家族 (0 人) ■知見を有する者 (1 人) ■その他 (2 人)		

※ 当該様式は、「事業所自己評価」の結果を整理するとともに、その結果を運営推進会議へ報告するための様式として使用します。また、運営推進会議において得られた主なご意見等は、次ページ以降の「運営推進会議における意見等」の欄にメモします。

■ 前回の改善計画の進捗評価

資料 4-①

項目		前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
				自己評価	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		業務効率向上・情報共有の課題へ取り組み、サービスの質向上と職員のライフワークバランスを遂行する 1) 新規電子カルテの導入 ① 記録時間や帳票作成時間の短縮 ② 情報共有方法の改善 ③ 超過勤務の対策 2) 人員不足の改善 ① 法人の取り組みでもある、シェア体制の活用 ② 那覇市への相談や助言を受ける	1) 新規カルテの導入は済んでいる ①記録類の時間短縮になっている ②情報共有方法の改善にはなっている。iPad だけでなく申し送り帳や付箋の活用も行った。 ③超勤対策にもなっている。 2) 人員不足の改善 ①法人内の事務部門や訪問看護ステーションとのシェア体制をとり助けられた。 ②に関しては保留中	・新規カルテ導入により、記録時間の短縮のため超過勤務が減少した。 ・情報共有方法は広がったがまだ十分に情報共有ができていない。共有する重要な情報が操作ミスで電子記録から消去されることがあり困っている。 ・車を運転できる人員確保の必要性や送迎時の2人介助の増加が人員不足に影響あり。福祉用具の活用や本人のADL向上への取り組み、家族の協力依頼などの工夫が必要となっている。	・研修受講者より伝達講習を行い職員の質向上に繋がるのでは？ ・十分に情報共有ができていないことで事故や家族からのクレームに繋がることもある為注意してほしい。 ・職場環境改善を行い、働きやすい環境整備を行っている ・議事録の共有、保管場所の周知を行ってほしい。 ・災害訓練の対応について在宅での対応も盛り込んでほしい。 ・情報共有の統一、簡素化してほしい。
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	在宅看取りの強化継続 ① 看多機独自の看取りマニュアルを作成する BCP の策定 ② BCP 作成（新型コロナ・災害）の訓練計画・実施	1) 在宅看取りの強化継続 ①看取りのマニュアルはまだ作成していない。 ②BCP は現在作成中。	・看取りの事例が多数あり、施設の強みになっているが、独自のマニュアルが整備されていない。個々人の力量に任されている。 ・BCP は現在作成中	独自のマニュアルが整備されていない ケアマネの計画書が共有できていないとあるが、共有方法の検討を求める。看護師と介護士がスキルアップのため

					めにお互いの技術を指導し合うことが良い 相談の連絡方法を色々な手段で準備してほしい
2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	地域ケアシステムの理解を深める ① 運営推進会議への職員参加 ② 地域包括システム勉強会の開催 参加する職員は役割を持つ (身体拘束・高齢者虐待委員会報告・事故報告・ヒヤリハット報告)	1) 地域ケアシステムの理解を深める ①一人ずつ参加して現在3名の参加ができています。参加する職員には役割を持ってもらっている。 ②地域包括ケアシステムの勉強会できていない。	・地域ケアシステムの理解を深めるための勉強会は開けていない。今年度中に地域包括支援センターを交えて勉強会を企画予定。まだ少人数ではあるが、運営推進会議に参加して、看多機の地域での役割を理解してもらっている。	地域包括支援センターとも連携がうまく取れていなかったため今後は連携強化していきたい。	
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目 32～41)	地域の方の介護力を引き出す取り組み ① 地域に向け、法人が実施している初任者研修の啓蒙活動を実施する。 ② 地域住民を対象とした介護勉強会の開催 ③ 利用者さんが、地域の方と交流できる機会をつくる ① 移動スーパーや図書館等	1) 地域の方の介護力を引き出す取り組み ①今年度は、法人の引っ越しがあり例年より初任者研修開催が早まって、地域住民にお知らせする機会を逸してしまった。 ②法人の主催する浦添でのオレンジカフェで、尿漏れ予防体操やパットの種類と使い方について講義を行った。 2) 利用者さんが地域の方と	・リーフレット作成して初任者研修のご案内を地域の方に行う予定にしていたができなかったので次年度も計画したい。 ・包括松島でもオレンジカフェを実施していることを後から知り、地域の学校や公民館行事の把握など、交流目的も含めて情報収取が必要と感じた。	松島でオレンジカフェを開催する際には看多機とも連携したい。	

			交流できる機会を作る ①近隣の保育園児との交流を敬老会とハロウィンで行った。 ②看多機に移動販売(豆腐・タコス屋)に来てもらい利用者や近隣の方とも交流が持てている。	・コロナが落ち着いて、感染対策もしながら交流ができる機会を近隣保育園等とできるようになってきた。 ・ちゃーがんじゅう課包括グループのちゃーがんじゅうポイント制度の介護支援ボランティア受入施設の申請ができた。許可されたら、利用者さんとの交流のため今後近隣のボランティアの受入れを積極的に行っていきたい。	
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	医療が必要な利用者・利用者家族に対する在宅サービス(訪問)の強化 ① 家族からのフィードバックの共有方法の改善 ② 訪問看護による家族との関り 訪問サービスの十分な提供が行える人員体制の整備	1) 医療が必要な利用者・利用者家族に対する在宅サービス(訪問)の強化 ①連絡帳に家族からの情報を記入するスペースを広く持つなど工夫をしている。 ②利用者を受け持ち制で対応している。 2) 訪問サービスの十分な提供が行える人員体制の整備 ・看護職の募集を行った。	・連絡帳の文字が小さく高齢者には優しくない状況にある。家族との連絡をやり取りしやすいように連絡帳の改善が必要。 ・受け持ち制の導入にあたり、看護が意識して訪問に行けるようになってきている。 ・新規採用の定着には至らなかったが、法人から人事異動があり体制を整えつつある。	受け持ち制を行う事で信頼関係形成や安心感につながっているので続けてほしい。	

※「進捗評価(運営推進会議における意見等)」には、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします。その他の欄は、事業所が記載します

■ 「今回の改善計画」 および「運営推進会議における評価」

項目		改善計画	運営推進会議における意見等
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)		業務効率向上・情報共有の課題へ取り組み、サービスの質向上と職員のライフワークバランスを遂行する ・電子カルテの活用 ① 記録時間や帳票作成時間の短縮 ② 情報共有方法の改善 ③ 超過勤務の対策 ・人員不足の改善 ① 法人の取り組みでもある、シェア体制の活用 ② 那覇市ちやーがんじゅうポイント制度の活用	情報共有に関して iPad やノート、ホワイトボードなど複数の手段を使用しているが、逆に情報のつながりが課題。共有方法の統一と簡素化の必要がある。家族とのメールでのやり取りもできるなら活用してもいい
2. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)	・利用者の予後予測を踏まえるためにもカンファレンスを実施し、計画の作成につなげる 在宅看取りの強化継続 BCP の策定 ① BCP 作成（新型コロナ・災害）の訓練計画・実施	職員がスキルアップのためにお互いの技術を指導しあうことはいいと思う BCP への対応は在宅での対応も盛り込んでほしい
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)	地域ケアシステムの理解を深める ③ 運営推進会議への職員参加 ④ 地域包括システム勉強会の開催 参加する職員は役割を持つ(身体拘束・高齢者虐待委員会報告・事故報告・ヒヤリハット報告)	地域での看多機の役割を職員がわかるように運営推進会議に役割を持って参加する。 包括支援センターと協働し、勉強会を通して地域包括システムについて職員の知識を深めたい。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画(評価項目)	地域活動への参加と、地方自治体との連携 自治会活動に参加し地域活動への参画をしていく。	地域へのかかわりをさらに行ってください。

	目 32～41)		
Ⅲ. 結果評価 (評価項目 42～44)	医療が必要な利用者・利用者家族に対する在宅サービス(訪問)の強化 ③ 家族からのフィードバックをうけ、改善の必要がある場合は対応する。 ④ 訪問看護による家族との関り 訪問サービスの十分な提供が行える人員体制の整備	家族からのフィードバックを強化して家族が看多機のサービスをどう思っているのかを拾っていきたい。 常に家族のニーズを管理者やケアマネが拾い上げていく 受け持ち制で利用者との信頼関係、安心感につながるので継続してください。	

※「改善計画(案)」には、事業所としての案を記載します。「運営推進会議における意見等」は、運営推進会議の場で得られた主なご意見等をメモします